

広食性蚕の低コスト人工飼料育標準表

(蚕試：養蚕経営部)

1. 背景とねらい

最近、特徴ある蚕品種として広食性蚕品種「日601号×中601号」(愛称：あさぎり)が指定され、広食性蚕用の低コスト人工飼料の市販も開始されたことにより、これらを組み合わせた低コスト繭生産技術の研究が急速に進展している。そこでこの低コスト人工飼料育技術の早期実用化を図るため、飼育標準表を策定し指導上の参考に供する。

2. 技術内容

- 1) 広食性蚕の稚蚕人工飼料育作業体系はほぼ普通蚕人工飼料育に準ずるが、掃立当日の多湿(85%)、各齢の飼育温度が普通蚕桑育に比べおよそ2~3℃高いこと等が特徴である。
- 2) 低コスト人工飼料育での蟻蚕抑制は飼料への摂食性を減退させるので極力避ける。
- 3) 餌付け時の絶食は病原抵抗性を低下させるので、起蚕の発生24時間以内に餌付けする。
- 4) 広食性蚕は飼育経過が普通蚕に比べ短く、特に2齢は食餌期間・眠期間とも短いので、除湿時期には注意する。
- 5) 配蚕は段ボールで作成した専用飼育箱により行い、4齢給餌後、餌が乾かないよう防乾紙で軽く覆う等工夫する。
- 6) 広食性蚕は、齢がすすむにつれ光線に対する感受性が増し、一方向からの光線により蚕寄りを生じやすいので作業時間以外暗飼育とする。
- 7) 4眠時の除湿は飼育室が密閉でないのでむずかしく、早く出現した5齢起蚕が残餌を食下することにより経過の不揃いが生じる。そこで4眠時に消石灰やラジオライト等を蚕座全体に散布し眠座乾燥を行い、残餌と蚕の分離を図る。

3. 指導上の留意事項

- 1) 広食性蚕は蚕児の行動が活発で、とくに起蚕の這い出しが多いので這い出し防止剤を蚕座周囲に散布する。
- 2) 農家で4齢人工飼料育を行う場合、核多角体病ウイルス(NPV)に対する感染抵抗性がやや低いので、清浄環境の保持に努める。

4. 参考文献

稚蚕人工飼料育指導の手引き 1981年 農林水産省農産蚕園芸局

5. 試験成績の概要

表-1 低コスト人工飼料による広食性蚕飼育・繰糸成績 (1990年)

蚕期	メーカー名	飼育経過					1万頭 収繭量	繭重	繭糸 長	繭糸 繊度	解舒 率	生糸量 歩合
		1 齡	2 齡	3 齡	4 齡	5 齡						
春	日本農産工	日時 4.03	2.23	4.04	5.20	8.21	kg 16.0	g 1.80	m 836	d 3.44	% 51	% 17.60
初秋	日本農産工	4.00	3.00	3.08	5.15	7.03	16.2	1.72	859	3.23	45	17.23
	片倉工業	4.00	3.00	3.08	5.15	7.03	15.3	1.82	910	3.42	45	18.72
晩秋	日本農産工	4.06	2.22	4.02	5.17	7.09	16.7	1.70	861	3.14	79	17.93
	ヤクルト	4.06	3.16	4.03	5.22	7.04	14.3	1.74	865	3.31	85	19.26

供試蚕品種：日601号×中601号

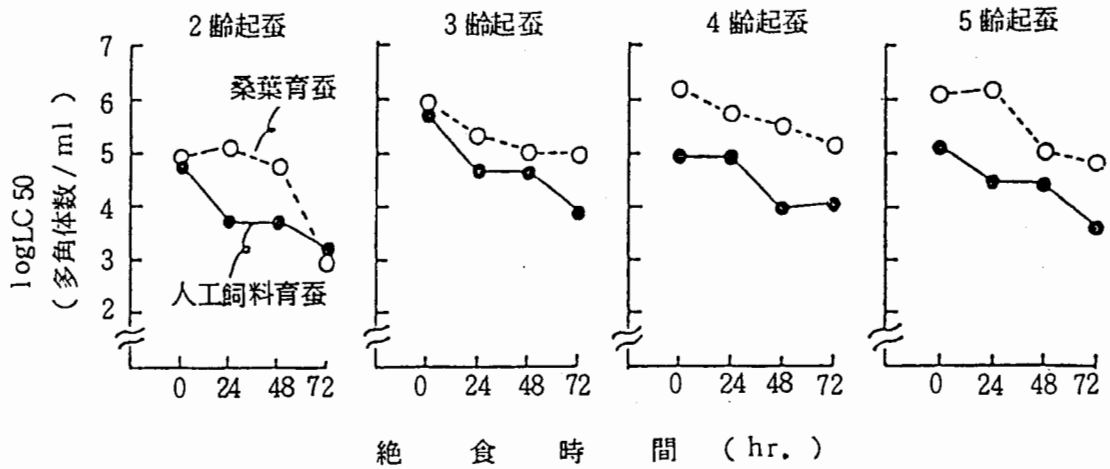


図-1 起蚕絶食と核多角体ウイルス (NPV) 抵抗性
(1990年、晩秋蚕、供試蚕品種：日601号×中601号)